

## 会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)	第2回川西市立学校のあり方審議会		
事務局(担当課)	教育政策課		
開催日時	令和6年6月11日(火) 午後6時00分		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委 員	川上 泰彦 委員、柳田 竜一 委員、伊丹 康二 委員 山本 利映 委員、下村 亜矢子 委員、平瀬 史明 委員 杉村 浩 委員	
	そ の 他		
	事 務 局	石田教育長、中西教育推進部長、下内教育推進部理事、岩脇教育推進部副部長、上西教育推進部副部長(教育保育職員・入園所相談担当)、西山教育推進部副部長(教育保育・インクルーシブ推進担当)、富本教育政策課長 他課員3名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1)子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について 3. 閉会		
会議結果	別紙審議経過のとおり		

事務局

## 1 開会

お時間がまいりましたので、令和6年度第2回川西市立学校のあり方審議会を開会いたします。

皆さまにおかれましては、本日はご多忙中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を務めます、川西市教育委員会教育推進部教育政策課の廣末でございます。どうぞよろしくお願いたします。

会議開催に先立ちまして、事務局からの連絡事項をお伝えさせていただきます。

ご発言の際ですが、お手元のマイクを通してご発言いただきますようお願いいたします。マイクの音声上、ご発言される際のみ、マイクの電源をオンにいただき、ご発言いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の会議は、この会場での参加およびリモートでの参加を併用する形で実施いたします。本日は対面でのご出席が6名、リモートでのご出席が1名、計7名全員にご出席いただいております。リモートでご出席の伊丹委員につきましては、会議開始前に音声および映像により、ご本人であることを事務局で確認しております。

事務局の出席につきましては、教育長 石田、教育推進部長 中西、教育推進部理事 下内ほか7名でございます。

本審議会は、川西市立学校のあり方審議会会議公開運用要綱等に基づき公開することとしており、傍聴できることとなっております。本日は傍聴者が来られております。

会議録作成のため、本審議会の様子を録画、録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。会議録については、各委員のお名前を伏せた形で発言要旨を事務局でまとめ、会長にご確認、ご承認いただき公開となります。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、ここからの進行は会長にお願いしたいと思います。川上会長、どうぞよろしくお願いたします。

## 2 議事

(1) 子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境に

ついて

会長

どうぞよろしく願いいたします。  
それでは、次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。  
まずは前回の振り返り、それから今回の議論に向けて、事務局から整理、ご説明をお願いいたします。

事務局

①第2回川西市立学校のあり方審議会スライド説明

【前回の振り返り】

【議論のための共通認識】

【適正な学校（学年）規模について】

会長

ご説明ありがとうございました。  
一つ目の論点は、学校規模、いわゆる学年規模についてです。先ほどお示しいただいた基準で、小学校でいえば1学年の学級数が単学級の場合を、中学校でいえば3学級以下の場合を小規模としておりますが、現状川西市にもその規模の学校があります。そういった学校での運営の状況に関する校長会からのご意見をお話いただきたいと思います。

委員

②校長会資料説明

【適正な学校（学年）規模の下限について【校長会 意見】】

小学校長会として、校長としての経験、教諭として携わった経験、単学級を経験していない校長も、それぞれの指導における経験や意見を出して頂き、集約してまいりました。

まず、単学級の良さですが、まとめるに当たっての観点は、子どもの視点と学校運営上の視点、つまり大人の視点の二つです。

子どもの視点で言いますと、一つ目に、子どもたちの人間関係が良好な場合、長期的に安心な環境で過ごすことができます。

二つ目に、クラス替えがないため、年度替わりも落ち着いて迎えることができます。

学習面、生活面の両面において、ある程度、これまでの人間関係ができていることから、自分の考えや自己表現がしやすく、学習も進めやすいということです。子ども同士の動きもみんなが予想できるので、ある程度進めやすさもあります。

三つ目としては、学校行事など、個別の活動機会を設定しやすく、子ど

もたちを活躍させることで、自己肯定感を高めることができる点です。

四つ目としては、子どもたち同士、お互いの良さを知っているため、児童相互の人間関係が深まりやすい点が挙げられます。それから、人数が少ないことを効果的に活用して、異学年交流が設定しやすく、その人間関係の深まりも期待できます。

その他、単学級の良さというよりも、1学級の人数が少ない良さとして考えられるのですが、大人からの支援が受けやすい、より個に応じた学習支援が受けやすい、児童・生徒の一人一人に目が届きやすいという意見も出ていました。

続いて、運営面です。

一つ目として、学校を運営する点においては、施設や設備の利用がしやすく、時間割も、単学級であれば組みやすいと思います。

二つ目として、学校行事等で、個に応じた関わりや表現などが工夫でき、劇をするにも、学級を決めるにも、スポーツをするにも、活躍の場面を考えやすいということが挙げられます。

三つ目として、校外行事等でコンパクトな動きができ、急な変更にも対応しやすく、地域の方にお話を聞きに行ったり、出前授業で迎えるといったことが可能になります。

四つ目として、教職員が全校生を把握でき、児童と教職員の関係性が取りやすく、職員が一体となって教育活動を進めることができる点です。

具体的には、職員全員が児童一人一人の個性や特性が分かるので、行動の変容がより実感できて、成長をみんなで実感することができたという意見がありました。

それから、教職員内で意思疎通がしやすいので、学校の新しい取り組みにも共通理解を持って導入することができたということも意見として挙がっています。

続いて、単学級の懸念事項です。

子どもの視点で言いますと、一つ目として、人間関係がうまくいかない場合、6年間同じクラスのため、クラス替えによるリセットで回避することができないことが挙げられます。それから、保護者に関しても、人数が少ない学校や単学級では、地域も狭いため、トラブルになった時につらい思いをする場合もあります。市外から転任してくる校長や教員もいますので、市外の事例も含めて、いろいろな話も聞いておりますが、過去に、クラス替えができないことを理由に他校へ転校した児童もいると聞いています。もめ事をして、話し合いをして解決に向かったけれども、次の学年でもやはり同じクラスになることから、これからの見通しが立たないことで

転校された例もあったとのことでした。

二つ目として、少人数により、多様な考え方や関わりが確保できないことが挙げられます。

三つ目として、固定化された人間関係から、考えの広がりが少なく、成長につながらず、リーダーの固定化や相互の評価が固定されます。具体的に言いますと、クラスのメンバーが同じなので、児童の中で正しい意見を言う子という固定概念が生じて、対立意見があまり出ないことがあります。そして、話し合いや意見の練り上げが難しい場面が出てくるということです。

四つ目として、切磋琢磨しようとする意欲が少なくなり、競い合う場面が少なくなります。

それから五つ目として、中学校に上がる時など、ほかの学校と一緒にあった時に今までは同じ児童としか触れ合っていなかったため、環境の変化が大きく、学校に行けなくなる場合があるという意見もありました。

単学級の運営面での懸念事項としては、一つ目に、学校行事の制約が生じる可能性が高いことが挙げられます。単学級なので、引率する教員の数、それから、1人当たりで算出する費用面で少し制約が生じることがあります。

二つ目として、教員数が少なく、専科の先生を配置することができず、専科の先生が1人だけになってしまいます。

三つ目としては、教員1人当たり校務分掌の担当が増えるため、出張が増えます。

四つ目としては、担任1人で学年全てのことをする必要があり、負担が大きくなります。複数学級であれば複数の教員で役割分担ができます。

五つ目としては、担任1人の主観で多様な児童を指導することは、その見方や対応を誤ると、学級経営等が困難になります。教職員個人の特性や指導力が児童に与える影響が大きく、複数でのアセスメントが出来ないため、デメリットがあるということです。

六つ目としては、教職員も多様な考え方に触れることができないことです。若年層の先生が同じ学年の先輩教員から学ぶことも多いので、それが無いということです。

小学校長会としては、以上の考えとなりました。単学級だからこそできることには、異学年集団での活動や、単学級の担任の先生の思いが学校全体に反映されやすいこともあります。一方で、ある程度規模がないと学年単位での水泳指導ができない、運動会の競技、演技ができない、全ての学校の場所の清掃が難しくなる、クラス替えができないなど、単学級の懸念

点も、ある程度校長会では認識する形となりました。

以上です。

委員

私のほうも、市内7中学校の、中学校長会の意見を集約したものをここでお伝えします。

まず、小規模、3学級以下の良さについて、子ども視点の良さをお伝えします。小学校とかぶる部分で幾分割愛させていただく部分もございます。

一つ目としまして、同学年の子どもたちのことをそれぞれが把握しやすく、学年全体で関係性が深くなることが挙げられます。みんながお互いに知っている人なので、子どもたち自身が安心して過ごすことができるところが大きなメリットだと思います。

二つ目としまして、子どもたち自身が学年を超えて関わる機会が増えてくるかと思えます。体育大会、球技大会等でも、1学年だけで行いますと非常に小規模なものとなってしまいますので、全校生で行うことも可能となってきますし、縦割りでさまざまな取り組みを実施することも、小さい学校ならば行うことができると思います。

また、行事などにつきましても、学年ごとの行事ではなく、全校で発表し合えます。文化発表会であったり、合唱の発表会であったり、異学年の活動も見ることができることは、小規模校の良さと思っております。

三つ目ですけれども、学年の教員だけでなく、他学年の教員との関わりの機会が多くなります。授業、部活動、委員会の活動など、学年の決まった先生だけでなく、さまざまな先生が関わる点ができる点が、子どもにとって良さになると感じております。

続きまして、小規模校の運営面の良さについてですが、一つ目として、子どものこと、学校運営のこと等、教員が情報共有しやすい、学年を超えた学校全体での子どもに対する見守りができるところが良さであるかと思えます。養護教諭などは、身体の配慮の事項なども細かく把握する必要があります。当然、小さい学校のほうが把握できます。

二つ目ですけれども、体育館や特別教室の使用制限が少ないので、時間割を柔軟に組むことができます。どうしてもクラスが多くなりますと、体育館をどの学年が体育の授業で使うのか、また、天気が悪くなった時に何クラスも体育館に入らなければならないといったことが起こり得ます。ですが、小さい学校であれば、その時間に体育を行う学年、クラスは限られておりますので、自由に使用することができ、また、理科室や学習室などの特別教室も使用する時間が重なることが少ないので、時間割等も制約が少なく組むことができるかと思えます。また、施設の広さ、キャパシテ

一の制限がないので、学年の集会や全校集会も、すぐに実施しやすいところが小規模の良さであるという意見が出ております。

三つ目として、修学旅行、野外活動を行う時の、校外行事での制約が少なく、ある意味小回りが利くと言えます。例えば、宿泊行事の場合でしたら、宿舎の部屋数や、全学年が一斉に集まることができる食事会場が確保できるのか、もっと言うと、あまりに学年の規模が大きくなりますと、全学年が一斉に新幹線に乗れないなどといったことも起こり得ます。ですが、規模が小さければ、そういったことを考えずに自由度の高い選択が可能になるという意見が出ておりました。

続きまして、今度は懸念事項になります。資料には書いておりませんが、やはり中学校でも、クラス替えの制約が問題ではないかという意見が出ておりました。小学校から中学校への進学で配慮すべきこともどんどん増え、人間関係も非常に複雑になってくる中で、クラス数が少ないことで、とれる選択肢が非常に少なくなることは、懸念すべき大事な部分だという意見が強く出ております。

資料に戻り、子ども視点からの懸念事項の一つ目としまして、行事の規模が小さくなり、盛り上がりには欠ける場合があります。例えば、球技大会を学年で行っても、日頃の学年の体育の授業とさほど差がなく、盛り上がりには欠けます。加えて、ただ盛り上がる、盛り上がらないだけではなく、行事にはそれぞれ教育的な効果、目指すものがあるかと思えます。仲間づくりであったり、共働して一つのものをつくっていくといった狙いがあるかと思うのですが、そういったところが実感しにくいということも、小規模校の場合には起こり得るのではないかという意見が出ておりました。

また、二つ目として、コミュニケーション能力、表現力が育みにくいという意見がありました。やはり同じ人との関わりしかないので、気を遣わなくていい部分はあるかもしれませんが、多様な意見、考え方に触れる機会が少なくなってしまう。さまざまな生徒の発表や、考えを聞く中から、自分がどのように伝えるのかというヒントを得たり、自分で考える機会を子どもたちは手に入れていきます。しかし、そういったことが少なくなってしまうため、どうすれば他者に分かりやすく自分の考えを伝えていくのかを考える機会が少なくなってしまうのではないかという意見がございました。

続きまして、運営面ですが、一つ目としまして、教職員が少ないために、バランスの取れた教員の配置がしにくいという意見がございます。これにつきましては、中学校などは特に、1年生、2年生、3年生でそれぞれ学年団というものをつくって、学年を学年教師で見っていく色合いが強いので

すが、学年の配当などを考える時でも、ベテランの教師とまだ経験の少ない教師のバランスが悪くなりますと、なかなか配当を組みづらくなります。3学級ぐらいになってしまいますと、学年の先生も4名、5名しかいないことになってしまいますので、そういったところはデメリットかと思えます。

二つ目としまして、出張時に教員が不在となった時の影響が大きく、出張に出づらいことが挙げられます。出張の数は、大規模校でも小規模校でも大体同じぐらいです。1校1名出席してくださいといった依頼がありますので、そうなった時に、小規模校ならば、授業の変更や、自習の体制を組む、その自習監督も誰が行くのかということも、教員が少ない中では対応が難しいので、これは小規模校に勤めた場合に大きく負担に感じる部分です。

三つ目としまして、授業に関しまして、1人で受け持つ学年が多くなるため、テストを作成する量が多くなります。複数学年分のテストを1人で作ることになりまして、当然、日々の授業に関しましても、教材準備をよりたくさんしなければならぬことが起こりますので、教員の負担が非常に大きくなります。

四つ目としまして、これが非常に大きいかと思うのですが、3学級以下になりますと、免許外の教科を担当する必要が出てきます。大体、各学年4クラスずつありますと、中学校の先生は自分の専門教科だけを教えることで済むのですが、クラス数が4、4、3や4、3、3になってきますと、免許外で、特に実技教科を専門外の先生が教えるということが起こります。現在も、市内の小規模校の中では、例えば、技術の授業を3人の先生が専門外でそれぞれ担当しているといったことも起こっています。

私自身も、中学校の時に小規模校で過ごしてきたのですが、美術の授業は英語の先生に教えていただきましたし、技術の授業も数学の先生に教えていただいたという経験がございます。ですので、専門性の高い教育を受けるという視点であれば、小規模校で免許外の授業を受けざるを得ないことは非常に大きなデメリットかと感じております。

また、教員が少ない学校、2学年にわたって授業を担当する学校は、修学旅行があるけれども他学年の授業も担当している、「トライやる・ウィーク」があるけれども他学年の授業を担当しているということが起こるので、その行事に集中して関わることができません。小規模校はそういった運営上のデメリットがあるかと思っております。

最後に、小規模校だからこそできる教育という視点では、校外行事等の取り組みの制限が非常に緩やかで、小集団ならではの活動、学年、学校全

体の取り組みがやりやすく、学校全体としての取り組みも、キャパシティなどに余裕があるといったメリットがあるかと思います。大規模校でもいろいろな工夫をすることで可能な部分はありますが、そういった取り組みを簡単にできる点が小規模校の教育のメリットかと思います。

また、ある程度規模がないと実施が難しい教育、体育大会や学習発表会などにつきましては、先ほども述べましたが、集団での活動に物足りなさを感じられることと、クラス間の学びの交流が少なくなってしまうということも小規模校でのデメリットです。ある程度の規模がないと行事の実施が難しいという意見がございました。

長くなりましたけれども、中学校からは以上です。

会長 ありがとうございます。今のご説明をいただく中で、教職員の定数や学校の中での仕事の分担、校務分掌など、少し専門的なお話が出てまいりましたので、ここについては事務局のほうで少し補足をいただければと思います。よろしくお願いします。

事務局 ③第2回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【議論の補助資料】

会長 ご説明ありがとうございました。今、両委員、それから事務局からの発言が続きましたが、委員の皆さま、学校のサイズ感について、特に小規模の話は今していたわけですが、ご意見がございましたらご発言いかがでしょうか。

委員 今のお話の中で、1学年当たりの学級数が少ないことの良さもあったのですが、同じく、1学級当たりの人数が少ないメリットもあったかと思います。前は先生の定員のお話があったと思うのですが、生徒数の定員のお話がありましたか。今、前回の資料を見ていたのですが、そのあたりも併せて考える必要があるのではないかと、お聞きして思いました。

というのが、北陵小学校の1年生が、今辛うじて2学級なのです。定員のことは私も詳しくは知らないのですが、1人転校してしまうと1学級になってしまうという話がありました。1人抜けるか抜けないかで大きく学級の在り方が変わるということでとてもひやひやしていましたが、辛うじて2学級を保てたと聞いていました。そのあたりの柔軟性について、定員はあるけれども、1人抜けても2学級を維持することができるのか、単学級にしないといけないのか、教えていただけますでしょうか。

事務局 一つのクラスの中の児童・生徒の数の基準について、この後、学級規模ということで議論していただきますが、スライドでお示ししているとおり、基準は国が示しております。また後ほどご説明いたしますが、小学校で、1クラス35人、中学校で1クラス40人というのが一つの基準になっております。小学校だと、この35人を超えると2クラスに分かれる基準になっておりまして、先ほどお話にあった、クラス数によって教員の配置が変わるという点についても、35人を超えると2クラスになるので、教員の配置にも影響してくるといった関係性になっている制度となります。どの程度のクラス数が良いのかというのは、また後ほど校長会の意見も踏まえて議論していただきます。

会長 分かりました。ありがとうございます。ちなみに、学年の途中で配置数が変わることはないですか。

事務局 教員の定数につきましては、基本的に4月9日時点の児童・生徒数によって決まりますので、その時点の数が基準の人数を満たしていれば、その年度中は変わることはございません。

教育長 正確に言うと、35人で1人の教師が付くということです。ですので、35人学級をつくりなさいという意味ではなく、もし35人で学級を2学級とすると、教員を国の基準以外から持ってこないといけません。ですので、国は基本的に35人で1人の先生を付けますという意味です。厳密に言うと学級規模とは違うのですが、基準以上に学級をつくろうと思うと、市の予算か何かで付けなければいけない形になると思います。

会長 そうですね。国からお金がかかる基準という理解がより正確かと思えます。ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。子どもの数、学校のサイズ感が小さい場合についてのご意見はありますか。

副会長 私自身、現場の教員をやっておりましたが、私が実際教員として働いていた時は割と大規模校が多かったので、あまり小規模校の経験がありませんでした。ただ、管理職になってからは、学年が3クラス、2クラスという中学校に勤務したことがございます。先ほど委員の方が話されたように、小規模校は、良い言葉で言うとアットホームな感じがして、管理職であっ

でも本当に子ども一人一人の顔が分かる、校門のところに立っていれば、子どもたちが毎日通っていく中でも名前と顔をどんどん覚えられる、そういった点ではとても良いと感じました。

ただ、だからといって、子どもたちに細かな教育ができるかという点、そうではありません。生徒数が少ないと、一人一人の子どもに手厚く教育ができる感じがしますが、結局は教員の数が少ないので、子ども一人一人に対する教育は大規模校とそれほど変わらないのではないかと思います。そう考えると、小規模校の場合は、アットホームなメリットはありますけれども、社会性や、いろいろな友達をつくる、いろいろな先生に出会うという点で考えると、私はやはり懸念のほうが大きいという気がしました。

会長

ありがとうございます。そのほかにご意見ございますでしょうか。

委員

私自身、教育面は専門外ですが、今日ご説明いただいた単学級の懸念事項や良い点などは、小学校の子どもがいるので、何となく感覚的には理解できていると思っています。もし今後、川西市内で、特定の学校の統廃合などを考えていく際に、皆さん1クラス35人がいいですか、40人がいいですかとか、あるいは学級数なども、小学校の学年は2～3クラスがいいと思いますかと聞かれてもイエスかノーかという議論はとても難しいと思います。その時に単学級に全く良い点がないのであれば、それは適正規模にすれば良いのですが、そうではなく、適正規模以下であっても良い点があるならば、単学級の時の懸念事項を何とかクリアする方法はないのでしょうか。それさえもいろいろと検討した結果、方法はありませんとなると、単学級はなくしたほう良いとなるのだと思います。今日、説明いただいた資料の中に、学校行事の制約や、少人数で1クラスがまとまってしまう時に環境を変えることができないという話が多々ありましたが、例えば、近くにある小学校とかなり密に行事運営をすることか、週に1日ぐらいは一緒に授業を受けるとか、何かの授業は一緒にするという、ハイブリッドのようなことができ得るのかどうかを、検討していったうえで、今後の学校の統廃合という議論を行う必要があるのではないかと思います。そのあたりの、近隣の小学校同士、あるいは中学校同士の深い連携という可能性はあるのでしょうかということを、素朴な疑問として聞きたいと思いましたが、いかがでしょうか。

会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

委員 小学校に勤務しているのですが、学期に何回かの連携ということであれば、可能性があるので面白いのではないかと思います。頻りに連携となると、子どもの移動時間、教師の打ち合わせ時間、その点を考えると得策ではないと、私は聞いていて感じました。

委員 ありがとうございます。そのあたりは先生方の意見、あるいは、子どもたちにとってのメリット、デメリットも整理した上で、ハイブリッドのようなことも考えてみたけれども、やはりそれは非現実的だといった説明があると次に進みやすいかと思います。

教育長 今、市内の小規模校でも、一緒にできる行事についてはやろうという動きもあります。実際に少人数になりますと、交通費が非常に高くなってしまいう現実があります。一緒にすることによってそのコストを下げていることをしている場合があります。ただ、やはり難しい面もありまして、例えば、修学旅行などをそのような形にすると、取り組みのその日だけを一緒にすることもできるのですが、事前の学習から一緒にしていけないと、その場だけ一緒にしますということは、なかなか教育的には、人間関係もできていない中では難しいということがあり、全て連携できるとは言い難いです。

それから、定期的な連携については、私が出席する教育長会議内での事例として、オンラインを活用して授業を交流するという例は見られるようになってきました。これは移動せずに交流できるので、一つの新しい良い取り組みかと思っています。ただ、これも課題としては、やはり対面でないと得られない子ども同士の関わりというものがあります。学習面だけで本当にいいのか、例えば、休み時間など、子どもたちにしか見えない時間をどれだけ一緒に過ごすことができるのかといった課題も報告されているのは事実です

委員 ありがとうございます。

会長 ありがとうございます。

委員 先ほど、ほかの学校との行事といった話のところ、芸術鑑賞会のようなものは一緒にされていることと思います。私も小学生の子どもがいるのですが、やはり、ほかの学校の子がいることがとてもうれしいというか、知っている子がいるということでもとても喜んでいきます。なので、事前に一

緒に教育をしている上での行事というのは難しいかもしれませんが、単発などでもしていただけたら、子どもたちにとって良いことだと思います。おそらく、一つの学校であれば、芸術鑑賞会のような大きなことはできないと思うので、ありがたいと思っています。

会長

ありがとうございました。この規模でないとどうこうという話の一方で、今、いろいろお話が出ていたように、サイズ感に合わせて、各学校でこれまでも工夫をされてきているところがあるわけですね。

なので、小規模だからといって、とてもよろしくない教育が現状で行われてきたかという、そうではなくて、現状、各学校単位で非常に創意工夫を凝らしたり、できる範囲で何かできないかということ積み重ねてきているということは、この議論を進めていく上でも非常に大事なところかと思えます。この間のお話いただいた規模感の話でも、個々の先生方が学校のごとの調整をあまりしなくてもいいという言い方が良いのかは分かりませんが、要は、先生方や各学校の工夫によらなくてもできる部分が増えますよというのが規模感の捉え方としてはより適切なのかと思えます。これでないと駄目だ、この基準を外れるのは不適切であるといった理解というよりは、そこに近付ける工夫はもう現状各自されていらっしやって、その懸念が薄くなるのが今回の規模感の話かと理解しております。

続いて、規模が小さいほうの話先ほどしてまいりましたが、この後、基準以上の大きな学校になった場合の話先ほど同様、両学校長それぞれから少しご発言をいただければと思います。

よろしくお願いします。

委員

#### ④校長会資料説明

##### 【適正な学校(学年)規模の上限について【校長会 意見】】

4クラス以上という形で校長会の意見をまとめてきています。これも先程と同じように、子ども視点と運営面との二つでお話させていただきます。

まず、子ども視点からの4クラス以上の良さです。

一つ目として、多様な考えに触れることができる、人がたくさんいるので、いろいろな考えに触れることができるということです。

二つ目として、クラスで友達関係に悩んだ時も、ほかのクラスの友達と交流することができる。また、友達関係の選択肢も多くあるため、児童の個性に応じた人間関係が構築できるということです。

三つ目として、毎年のクラス替えで新しい気持ちで新学期を迎えられる、

学年ごとに関係性をリセットしやすい、気の合う友達を見つけやすいということが挙げられます。

四つ目として、まとめなければいけない人数が多く、エネルギーが必要なため、リーダー的な児童が育ちやすい、それから、うまくいけば児童の自治が育つ学級づくりや、パワーあふれる児童が育つ土壌ができるところも意見としてありました。

続いて、運営面からの4クラス以上の良さです。

一つ目の良さとして、学級編成にいろいろなパターン、幅ができるので、クラス替えが考えやすい。また、前年度の課題を解消するためにも、教師が知恵を出してクラス編成を替えやすい、考えやすいといった点です。

二つ目として、先ほどの教員定数の表では、専科教員が3名ということになりますので、教職員の数が多く、校務分掌が適度に分担され、出張などの機会も減少します。比較するものではないかもしれませんが、小規模校では五つ、六つあったのが、一つか二つの校務分掌で対応できると認識しています。

三つ目ですけれども、学年で相談して行事を進めていくことができる、学年担任制や教科担任制の組織的な工夫や取り組みをすることができます。

四つ目として、学年で意見や知恵を出し合いながら運営できるため、充実した教育活動を実施しやすいです。

五つ目として、経験の浅い教員がベテラン教員から学ぶことができます。男女比や年齢構成を考えたバランスの良い学年配置が考えられます。

続いて、子ども視点からの4クラス以上の懸念事項です。

やはり1番としては、自分を表現する機会、場が減る。実行委員を配置するとしても、多数いると、自分がやりたいと思ってもできない場面が出てくるだろうという可能性です。

二つ目として、子ども同士の学年全員との関わりは希薄になります。生徒数が100人を超えると、話したこともない子どもたちが生まれるだろうということです。

三つ目として、1人当たりの使える施設が、小規模校と比べて限られ、遊びにも制限が生じます。これは物理的な話で、120人で8個の水道を使うのと、20人で8個の水道を使う込み具合を考えると明らかです。また、先ほど中学校の時間割の件がありましたけれども、体育館の時間割を変更しようと思っても、空いている時間がないといったことが起きてきます。

四つ目として、新年度、クラス替えで元のクラスと同じ子が少なく、誰かと一緒になりたいという希望も叶わないことで、不安やショックから、

落ち着かないことがあります。

最後に運営面からの4クラス以上の懸念事項です。

一つ目として、4クラス以上になれば、教師1人当たりの学年全員との関わりは薄くなり、教師1人で学年全員を把握しにくくなります。また、多様な課題が増えて、組織で対応するため、打ち合わせなどに追われがちになります。

二つ目として、打ち合わせ時間を要し、みんなの共通認識の上、意思を統一して行うことが難しくなります。その結果、管理職が全学級を把握することも難しくなります。

三つ目として、音楽会など、学校で実施する学校行事の会場のスペースにゆとりがありません。音楽会を実施する場合、体育館で公演する時に二部公演をしないといけなかったり、保護者の入れ替えを考えなければならなかったりといった懸念事項が生じるということです。

四つ目として、校外学習等で移動する人数が多いために、場所を押さえることが大変になります。宿泊施設も、小学生の修学旅行で人数が多くなると、場所選びに制約が出てきます。また、自然学校で行うプログラムも、人数が多いと活動を半分に分けて行うことが発生するといった懸念事項が挙がっていました。

以上、小学校長会の意見です。

## 委員

中学校長会からとなります。

まず、大規模校、7学級以上の良さですが、ある意味小規模の逆なところもありますので、簡単にご説明させていただきます。

まず子どもの視点からの良さです。

一つ目としては、多くの出会いがあるので、行事面などで活気も出てきますし、子どもたち同士の交流の機会が多く、集団の中で多様な考え方に触れることができます。また、さまざまな場面でお互い切磋琢磨できる場面があることは、子どもにとっての大きなメリットであるかと思えます。

二つ目として、現在の人間関係の中で、どうしても解決しづらいことに直面した場合には、多くの方がいますので、いろいろな人とのつながり、選択肢が広がっていく、仲間づくりなどでもいろいろな可能性があるということが、大規模校の良さであるかと思えます。これは、クラス替えなどにつきましても大きく関係する部分かと思えます。

三つ目として、多くの出会いがありますので、生徒一人一人のコミュニケーションの能力を高めることができる機会が多いことが子どもにとっての良さかと思えます。

続きまして、運営面からの良さについてです。

一つ目といたしまして、多くの教員の目で子どもを見ることができることが大きなプラス面かと思えます。どうしても少人数の教員の場合では、この子はこうだからといった考えが働いてしまうようなところもありますが、さまざまな教員、多くの教員の視点で見ることができると、アセスメントの部分などでもいろいろな考え方が入り、子どものことをより良い方向へ導いていくことが出来るかと思えます。

二つ目といたしまして、教員が出張や、急なお休みで不在の場合でも、代替の先生が自習に当たったり、別の教科に振り替えるなどの対応をスムーズに行うことができます。また、出張や研修などに教員も参加しやすくなりますので、教員自身が仕事と同時に、自分自身の学びにつなげていく機会をしっかりと取ることができるのは、大規模校の強みかと思えます。

三つ目といたしまして、校内での教職員にはベテランの教員もいますし、経験の浅い教員なども幅広くおりますので、学び合いの機会を、仕事をしながら設定することができるかと思えます。業務の中で多くの学びがありますので、特別研修を設定しなくても、ベテランの先生、また、力のある先生の技を盗んだり、若手に伝えていくといったことを、仕事をしながら行うことができるのが大規模校の良さかと思えます。

続きまして、懸念事項です。

子ども視点からの懸念事項ですが、一つ目といたしまして、7クラス以上になりますと、子どもの人数が学年で280名ぐらいになってきますので、一人一人の個別の対応、細やかな個の対応が、どうしても限度が出てきてしまうところがあるかと思えます。

二つ目といたしまして、行事を行った場合でも、体育大会での出場の機会が少なくなってしまうとか、文化発表会のような文化的な行事を行う時でも、時間の制限などもありますので、大規模なものができなくなってしまうことが起こり得ます。

続きまして、運営面での懸念事項ですけれども、一つ目といたしまして、教職員同士の連携が図りづらい、また、学年教職員が学年の生徒全てを把握し、情報共有することが困難になるといったことも実際あるかと思えます。7学級以上となりますと、学校全体での全職員が50名ほどになってしまいます。また、学年の教師も14、15名ほどとなりますので、その人間全員が同じように情報を即座に共有することの難しさがあります。情報共有を徹底していく努力をしてはいるのですが、そういった問題は起こるかと思えます。

二つ目といたしまして、学校施設の利用の制限が生まれます。小規模校

の時の裏面になるかとは思いますが、どうしても集会しようと思っても、集まることができる場所が限られてしまう。理科室を使おうと思っても、複数学年同時に理科の授業を行っているので、理科室も週に1、2回しか使えない。また、体育を行う時でも、大体7クラスの学級数になりますと、どの時間も2学年は同時に体育の授業を行っています。ですので、体育館、グラウンド、また、天気が悪くなった時の割り振りといった制限が難しくなってしまう。また、少人数学習ということで、英語や数学の教科を少人数に分けて実施しようと思っても、その学習室の確保が難しくなってくるところが、大規模校の運営面ではデメリットで出てくるといった意見が出てまいりました。

会長

ありがとうございました。先ほどのご発言の中にも出てきていたかと思うのですが、冒頭に出てきていた小規模の論点と表裏になる部分が非常に多いお話だったかと思います。今のお話を受けて、大規模のケースでのお話がありましたが、小規模のケースでのお話も含めてご発言いただける委員がいらっしゃいましたらお願いします。

副会長

先ほどの発言の中で、私が教員の時代は大規模校の経験があったと言いましたけれども、実は、大学を出て初任の学校が、当時は兵庫県で一番大きな学校で、学年生徒が700人、全校生徒が2,000人を超えていた学校に勤めておりました。クラスはおそらく、16クラスあったかと思えます。そこで、その学年を3年間持ち上がりでみましたけれども、私の教員生活のスタートとしては、本当にいろいろな子どもを見ることができました。いろいろな先生からいろいろな教えを受けました。もちろん、中には反面教師的な先生もいたことは事実ですが、本当に尊敬できる先生がいて、それが自分自身のその後の教員生活の基盤になったのではないかと、これは感じました。やはり、多くの先生や子どもたちと出会えることはとてもプラスになったと思います。これは多分、子どもたちも同じではないかと考えています。たくさんの友達と出会い、たくさんの先生と出会えることは、その子の将来のプラスになるのではないかと、とても感じています。

ただ、その反面、これも先程言われたとおり、本当に動きづらいです。修学旅行はバス16台で行ったことを思い出しますが、1号車が来てから16号車が来るまで1時間近くかかるといったことを今でも覚えています。後でまた学級の人数が出てきますが、人数のメリットもあまりないです。例えば、中学は40人学級ですが、40人だと1クラス、41人だと2ク

ラスで、1クラスが20人という、とても良い1クラスの人数になりますが、400人で10クラスが401人で11クラスになっても、1クラス37人か38人になるだけで、あまりメリットがないと考えられます。ですので、1クラスの人数は、大規模校はとて多く、現状の40人学級、35人学級ということを考えては少なからぬというのがあります。そのあたりも大規模校の損なところではないかという気はします。

会長

ありがとうございます。そのほかご発言をいただければと思いますがいかがでしょうか。

委員

私は、子どもが去年まで大規模校と言われる中学校に通っていましたが、それまで通っていた小学校がわりとちんまりしていたので、大きいところに行って大丈夫かという不安はありました。ですが、部活動などいろいろあって選択できたり、いろいろな子がいるので、何かをする時も元気が良かったりということはとてもメリットを感じました。

一方で、運営面で、先生方の業務負担という視点はとても重要だと思います。登校班の先生や生活指導の先生というのはよく聞いていたのですが、先ほどの校務分掌という言葉も、私は今日初めて聞いたので、二十何個もご自身の担任の業務以外にあることはとても驚きました。

そもそも、この校務分掌は国から決められているのでしょうか。こういうことをしなければいけないわけではないと何となく決まってくるものではないのでしょうか。ここでの議論が良いのかどうかは分からないのですが、先生の、本来子どもと向き合う時間以外の業務がありきにならないため、校務分掌の中にはなくして良いものもあるのではないかとこのところも並行して考える余地がありそうだとは思ったのですが、そのあたりはどうですか。

教育長

私も校長だった時にいろいろな学校へ行きましたが、校務分掌は別に、これをやりなさいと決められているわけではないです。けれども、教科以外に校務も円滑に運営するために、基本的にはある程度つくるのが求められています。ただ、どの項目があるかというのは、学校によって違うとは思いますが、例えば、情報教育などになりますと、学校だけではなく、市内の学校で情報教育部会というものをつくって、共通で取り組んでいこうということがあります。もちろん学校単独でつくってもいいですが、市全体としての部会があるので、私も校長の時に取り組みましたが、なかなか減らすのは難しいです。もちろん、小規模校になると減らしますし、減ら

さざるを得ない状況にはなっていますが、なかなか減らすことが難しいのが実際かと思えます。ですので、最大限こういった予算があるかどうかは別にして、大規模校にある校務分掌を、小規模校がなくしてしまうのは、それはそれで難しい課題もあるのではないかと考えています。

会長           ありがとうございます。ということは、学校管理規則上でこういったものがきちんと決まっているというよりは、各校の対応で設定していらっしゃるのが現状という理解でよろしいでしょうか。

委員           ある程度は校長が校務分掌を配置するような文言で学校教育法に載っているかと認識しています。種類については決められたものではないと認識しています。

会長           ありがとうございます。習い性や習慣として定着している部分もありつつ、少しいじる余地がないわけでもないという形ということですね。そのほかはいかがでしょうか。

委員           大規模校関係では、小規模校の逆の発想で言うと、大規模であるクラスなどを少し一時的に分けるようなことは、どの程度できるのでしょうか。

会長           ありがとうございます。先ほどの、小規模なりの工夫の部分と、今度は大規模でできる工夫の部分、そういった余地はあるのか、そういったことをどれぐらいされているのかについて、いかがでしょうか。

委員           まとまらない話になるかもしれませんが、私が今イメージできた部分で言いますと、大規模の小学校で言えば、4クラスの場合、35人学級なので、1学年140人です。4クラスなので、この場合理科専科の教員が付くと先ほど説明されていたかと思えます。そうすると、学年担任が4人いますので、理科の専科の教員と担任の教員とで、1クラスをハーフサイズに分けた授業が実施できるなど、今の頭の中ではイメージできました。通年ではなく、その単元によってはという捉え方ですけれども、子どもたちを半分に分けた授業が組み立てられます。

教育長          先ほども言いましたように、教職員の定数が子どもの人数、学級で決められますので、例えば23クラスの場合、教職員の定数は27人ですが、極端に言えば、専科をなくして全員担任にしても良いわけですね。そうする

ことによって1学級の人数を減らすことは、大規模校でもできることはできます。ただ、その時に教員の負担はどうかという問題があります。1学級の人数が減るほうが良いのか、図工を専門的に教える教員がいるほうが良いのかという問題はあると思います。特に、中学校はやはり難しいです。学級数が増えると教科を教えるクラス数が増えますので、このように単純にはできません。中学校で言えば、学級数を増やすと、当然ですけれども、行かなければいけないクラス数が増えますので、授業時数が多くなってしまふ懸念があり、難しいと思います。小学校では、比較的やろうと思えばできる余地もあるかと思いますが、教員にとってどちらが負担か、また、子どもにとってどちらが良いかという判断によるかと思います。

会長

ありがとうございます。

今、規模の大きな学校についてのご意見、ご質問をいろいろ頂いておりましたが、いかがでしょうか。

委員

規模が大きいとか小さいとか、市内でいろいろあると思うので少し違うかもしれないのですが、そもそも論で、地域を編成し直すなどということはできるのか、もしくは考えの中に入れても良いのでしょうか。

会長

校区の引き直しということですね。

委員

そうです。だいぶ多いところと少ないところがあると思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

事務局

校区の引き直しは可能でございます。少し最近の話で言いますと、緑台中学校が小規模化した時に、多田中学校の校区を緑台中学校の校区に引き直したケースがございます。ただ、その時に少し課題と申しますか、考えなければいけないことがあります。例えば、通学距離の問題ですとか、地域との関係性、校区を引き直すことでコミュニティや地域との関係性を分断してしまわないかとか、そういったところを配慮する必要があるかと思っております。

会長

ありがとうございます。

先ほどの小規模の話もそうなのですが、大規模は大規模でやはり良い点、難しい点があつて、各学校のほうで工夫をされている部分が少し見えてきたかと思えます。小規模の部分と併せて、このサイズ感だから、機械的に

学校教育はこう決まるといった性質のものではないということです。そこにどういった子どもがいて、どういった保護者、地域が関わっていて、先生がどういった方々かというところで十分変わってくる余地は大きいと思いますが、その工夫の余地の幅感を左右するのが規模のお話という理解をしていくのが一つ考え方かと思います。今日はその中でも、この規模が適正か不適正かといった話ではないので、よりやりやすいとか、標準、基準とするといった意味になろうかかと思っています。どういった規模感での学校をやりやすいもの、標準的なものと捉えていくかという点になるかと思うのですが、先ほどと同様、両委員から少しご発言を頂ければと思いますが、いかがでございましょうか。

委員

⑤校長会資料説明

【適正な学校（学年）規模について【校長会 意見】】

望ましい学年規模という形で捉えさせていただくと、校長会で話し合った話題の中では、国の基準と同じ数字が出てきますけれども、やはり1学年2クラスから3クラスが望ましいという結論です。理由として四つ並べています。これまで話題にしてきた内容ではありますが、校務分掌が適度に分担、平均化されて、教科担任制、学年担任制などの教育課程上の職員の配置の工夫も可能な規模になってくる点、学年の中で、複数の教員を配置できる規模である点、子どもたちがほかのクラスの取り組みを見て成長でき、クラス替えをして新たな人間関係を築くことができる規模である点、学年全体で児童一人一人がじっくりと向き合うことができ、教職員の意思疎通もしっかりと図ることができる規模であるという点の4点が挙がっています。このように書きましたけれども、1クラスが駄目という意味ではなくて、望ましい学校としては、2クラスから3クラスが良いのではないかと思います。

委員

中学校についてです。

中学校長会から出た意見ですけれども、大体1学年4から6クラスほどが適切かと思われま。先ほど、小規模、また、大規模のメリット、デメリットをお話させていただきましたけれども、どうしても小さ過ぎて、また、大き過ぎて調整しきれない部分というのが先ほどの話ではあったかかと思っています。この4から6クラスというのは、それぞれの規模のメリットをより大きく引き出すこともできる規模かと思われま。

理由といたしましては、一つ目としまして、クラス替えも、複雑な人間

関係の中でもある程度対応できるクラス数なのではないかと思われま

す。二つ目としまして、生徒、教職員にとってもゆとりがあり、学び合

い、学習がしやすい、共同がしやすいといった規模かと思われま

す。三つ目としまして、多様な人間と関わり合う機会があり、生徒も専門性

の高い学びを享受できる規模になります。どうしても、4クラスを下回

会長

ってしまいますと、専門外の教科を担当しなければならない教員が出てくる

委員

ことが発生しやすくなります。ですので、これぐらいの規模が適切かと思

われます。四つ目としまして、教育活動のしやすさ、教科指導と学級、学年の生徒

おいたほうが良いかと思えます。

というのは、この学校は大規模校だから何とかするようにとか、この学校はもう来年には小規模校になるのだから早々に対応しないと駄目だろうといった議論になるのは違うかと思えますので、ハイブリッドで何とかできる範囲の可能性を残しておくことは大事かと思えます。

会長

ありがとうございます。望ましい規模といった時に、恐らくグラデーションを持たせたまとめ方であったり、書き方であったりというところに向けてのご提案だったかと思えます。

今のご意見は、ぜひ議論の中に入れていただきたいです。基準を外れた場合は不適切という話ではなくて、何らかのフォローが必要ですか、何らかの工夫を考えましょうということであって、基準を絶対外れるべきないものとして運用することは、かえって窮屈な部分が出てきたりすることが懸念されますし、現状、いろいろといただいたお話の中でも、工夫されている部分はたくさんありました。その中でより、このサイズ感のほうにはまる子どもも恐らくいたであろうことを考えますと、この適正規模の議論から少し外れるケースについてのフォロー、グラデーションについて考える必要があると思えます。もう一つは、言い方が難しいのですが、適正規模に安住しないというのは大事です。適正規模に収まっているから学校としては特段何の工夫もなくやっておけば良いという話ではないので、さまざまな工夫を考えられる中で、ぜひ活動はしていただきたいと思えます。工夫をしなくて良いための言い方として、適正規模というものを使ってしまうのは、本来の趣旨は外れていくことになろうかと思えますので、このあたりのことを少し議論の中に入れていただきながら、望ましい規模感としての小学校の2から3クラス、それから中学校の4から6クラスというところにつきまして、委員の先生方、皆さま方のご了解を頂ければと思えますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

会長

ありがとうございます。

少し事務局に相談なのですが、委員の皆さまにお約束をしていた時間がだいぶ迫っている状況かと思えます。当初、論点としては、もう一点、学級規模についてのお話があったかと思えます。一つが、この時点で切ってしまうという考え方もありますし、次回に向けての参考というところで、話題提供や検討すべき点のご提示だけ事務局のほうで頂いて、今回はここ

までという考え方もあるかと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局

ご説明までさせていただいて、いろいろなご意見を頂くのは次回という形でお願いします。

会長

分かりました。ありがとうございます。

すみません、議事の進行がまずく、当初予定しておりました論点を十分消化しきれない流れになりそうでした、次回に向けてご検討いただくべく、今度はクラス数という規模感の話とは別に、学級の人数、学級規模についてのご検討を次にいただくこととなります。これにつきまして、資料を準備させていただいておりますので、事務局より説明いただければと思います。

事務局

⑥第2回川西市立学校のあり方審議会スライド説明

【適正な学級規模について】

会長

ありがとうございました。少し補助的なお話というか、適正な学級規模で35人、40人と出ていた部分につきましては、いわゆる県費負担教職員という形で、兵庫県のほうで人件費が出ているということです。先ほどまでお話があった、市で単学級を解消するとか、小規模学級にするというのは、県で採用している、要は、川西市単独での支出が発生しない範囲に加えて先生を雇うとなると、川西市単独でこれくらいの人件費を出していく必要がありますということです。35人、40人の範囲内については、川西市からの手出し分がない状態をご理解いただいていると、次以降のお話が少し進めやすいかと思ひまして、今、補足をさせていただきました。ありがとうございました。

先ほど申し上げましたとおり、当初、資料を準備いただいて検討をと思っていた論点に、少し積み残しが発生してしまいました。大変申し訳ございません。本日の会議録については、この後要旨を事務局でまとめていただきまして、私が確認、承認を進めさせていただきます。

本日の議事は以上となりますが、次回については、最後にご説明をいただいております、学級規模の議論、積み残し分からスタートしまして、小中一貫教育などの特色のある教育のお話、それから、今度は学校の適正配置、通学時間や通学距離の話が出てくるかと思ひます。

それからもう一つは、今日も少し話題に出てまいりましたが、学校と地域との関係について議論ができればと思ひしております。各委員におかれましては、それぞれの立場の視点でお考えをまとめておいていただけますと

ありがたいと存じます。特に、代表校長お2人の委員におかれましては、次回予定されている論点につきまして、今回のような形になろうかと思うのですが、各校の校長先生方のご意見をまとめていただくとか、現状、どういった形で進んでいるのか、実情の部分を詳しくご紹介いただけますと非常にありがたく思います。どうぞよろしく願いします。また、副会長におかれましても、これまでご経験されてきた立場からお考え、ご意見等を頂ければと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

重ねて申し上げますが、議事の進行があまりよろしくなく、積み残しが発生しております。大変申し訳ありませんでした。いったん事務局にマイクをお返しいたします。ご審議のご協力をどうもありがとうございました。

事務局

皆さま、長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

最後に、事務局から連絡事項をお伝えいたします。次回の審議会につきましては、7月3日、水曜日の予定でございます。また改めてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

[閉会 午後7時58分]